

資格の学校 **TAC** 平成 25 年度 特別区 I 類[事務]採用試験

論文 2 【解答例】

問題

近年、学校でのいじめや体罰が社会問題となっています。これらは、子どもの成長と発達に与える影響が大きく、社会全体がいじめや体罰は許されないという認識を持つことが必要です。いじめや体罰が起こる要因についてあなたの考えを述べ、地域としてどのように取り組むべきか論じなさい。

解答のポイント

昨年から引き続き報道が相次いでいる、いじめや体罰など、子どもを取り巻く問題について出題された。今回論じるべきなのが、「いじめや体罰が起こる要因」「地域としての取り組み」である。地域として取り組むべきことについて問われているので、地域で取り組めるような現状の問題点（要因）を挙げるのが大切だ。そうすると、一貫した論になるだろう。

解答例

いじめや体罰が起こる要因は大きく分けて二つあると考える。一つ目は、世代間の価値観、認識の相違である。いじめや体罰が「起こる」ということは、それがあると「認識する」ことである。教員の世代によっては自身が生徒だった頃の経験から、指導と体罰の境界が未だ曖昧な場合もあるだろう。つまり、子どもや保護者とは体罰の認識が異なり、体罰をしていることに気づいていない可能性もある。また、子どもの携帯電話等、情報機器利用の拡大に伴い、「インターネット上のいじめ」等が社会的に大きな問題となっている。保護者や教員からは楽しんで利用しているように見えたとしても、知人同士の些細なトラブルがいじめに繋がり、大人が認識できないまま深刻化することもある。

二つ目は、学校の閉鎖性が要因である。以前と比較すれば学校運営協議会等により、開かれた学校づくりが行われているが、未だ閉鎖的環境にあると私は考える。例えばクラブ活動などにおいては、勝利至上主義に基づき、保護者や部外の教員からは見えないところで体罰が横行していた事件も報道されている。いじめについても、この先長い期間を過ごしていく学校の中では、報復をおそれ、大きな声をあげて SOS を求めにくい環境に子どもは置かれていると考えられる。

いじめを放置すれば、学校内における暴力を容認することになり、また体罰を放置しておけば、いじめのモデルになることもある。それゆえ、特別区は喫緊の課題として対処していくことが求められている。

そこでまず行うべきことは、地域に開かれた学校づくりをすることだ。その手法としてスクールカウンセラー

やスクールソーシャルワーカーなどの専門家に加え、学校教育に興味を持つ地域住民に対し、これまで以上に学校運営に参加してもらえる仕組みを作ることを提案したい。地域住民と共に行える取り組みとして、「メンタルフレンド」による支援ができる。「メンタルフレンド」とは、心理や教育に関する学科について学び、子どもから見るとお兄さんやお姉さんのような存在に当たる大学生などを学校や家庭、教育支援センター等に派遣し、子どもや保護者への支援を行う取組である。私はこの支援をできるだけ多くの学校で行っていくべきだと考える。子どもが助けを求める声を拾うことができる多様な相談窓口を設置することで、いじめや体罰の兆候を迅速に察知することができるようになる。

次に、開放された学校を活用して、情報や認識を共有できる場を設けるべきだ。体罰やいじめについて、全ての世代で共通の認識を持てる取り組みを進めなければならない。これまで学校内の問題解決は教師間の議論を中心として行われてきた。もちろん、最も子どもに近い位置にいる教師が子どもの教育を考えることは大切なことであるが、今後は地域の有識者や子ども、保護者も含め、過去のいじめや体罰の事例、またそれに対する取り組み成功事例について議論する環境を構築していくべきだ。それにより、地域の実情に沿ったいじめや体罰に関するガイドラインを策定することができる。いじめや体罰をタブー視することなく、オープンに話し合うことによって、深刻化する前に対処することができるのではないかと。

いじめや体罰はどの学校でも、どの子どもにも起こりうることを全ての人が改めて認識し、いじめの早期発見、早期対応に努めることが、今特別区に求められている。

(1,380 字)

TAC 生はココで解けた！

- ・ 第1回公開模試でズバリ出題。
- ・ 論文対策レジュメ (P.129)。
- ・ 直前期オプション講座「特別区Ⅰ類セミナー」 P.10～14 ①学校教育問題について重点課題として予想。